

第2回愛媛県県立学校振興計画検討委員会地域協議会の開催結果(概要)

- 1 日程等 令和3年1月15日(金)～2月18日(木) 県内8地区で開催
- 2 出席者等
 - 地域協議会会員 157人(代理出席を含む)
 - 教育委員会事務局 7人(指導部長、高校教育課長ほか)
 - 傍聴者 5人(延べ人数)
 - マスコミ等 愛媛新聞
- 3 議 事 (1)第1回地域協議会開催結果報告〔公開〕
(2)振興計画策定の指針について及び意見交換〔非公開〕
- 4 協議結果 (各地区の協議会における会員の発言)

四国中央	<ul style="list-style-type: none"> ○高校は街づくりの一環である。<u>再編は総合的に判断</u>すべき。 ○最終的な統合は仕方ないが、<u>現状はその段階ではない</u>。 ○進学に重点を置いた学校の設置は<u>学校間格差を生む</u>ことが心配される。 ○<u>3校残すならそれぞれの役割分担</u>が必要。
新居浜	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>新居浜で全てが完結する体制づくり</u>を希望。 ○<u>学んだ単位を他校でも認める</u>など、多様な進路選択を可能にする制度を。 ○経済効率だけを考えている。<u>学校の魅力、社会が求めるものを考える</u>べき。 ○<u>普通科の魅力化をしすぎると進路が限定</u>され、行き先がなくなる生徒も。
西条	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>将来西条に帰ってくる</u>ことが大切。<u>教職員がそのことを教える</u>ことが重要。 ○再編整備基準の理念は素晴らしい。<u>負の面をいかにプラスに変えるか</u>。 ○<u>各市に中高一貫教育を導入</u>してはどうか。 ○<u>学校の独自性を出す方法</u>を。<u>職業学科を残す</u>ことも重要。
今治 越智	<ul style="list-style-type: none"> ○島しょ部の生徒数確保は難しい。離島の<u>募集停止基準は現行の基準の継続</u>を希望。 ○<u>地域の定義</u>を、今治市にとどまらず、<u>愛媛県として考える</u>べきでは。 ○町と学校が両輪となって<u>切磋琢磨すれば生徒は集まる</u>。<u>募集停止基準の特例を増やす</u>ことはできないか。 ○市内校の統廃合を真剣に議論すべき。<u>各校4～5学級となってもよいのか</u>。
松山 伊予 上浮穴	<ul style="list-style-type: none"> ○県が寮を作り、<u>環境を整えば、職業系学科の活性化が期待</u>できる。 ○特例制度はよいが、<u>特例校の名称には違和感</u>がある。名称の再検討を希望。 ○松山市だけが定員を維持すれば、生徒はますます松山市へ流れる。<u>生徒の減少数の割合に沿った定員削減</u>を。 ○<u>子どもたちの考えが再編整備に反映</u>されるよう、<u>ヒアリングの機会</u>を。 ○高校で深い学びを実践し、<u>即戦力の育成</u>を。<u>総合学科に大きな可能性</u>。
大洲 喜多	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>教育に予算と人材</u>を使うべき。<u>県から国への強い働きかけ</u>を望む。 ○地域と連携して<u>今踏ん張っている学校は、弾力的に扱えないか</u>。 ○<u>頑張っている地域を認めるような制度</u>を。 ○<u>数字を見れば切実な問題であると認識</u>。各校特色があり、<u>簡単にはまとまらない</u>。
八西 西予	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>学力を維持</u>するために、<u>それなりの規模の学校が必要</u>。 ○<u>キャンパス制を視野</u>に入れざるを得ない。<u>他県の例や本県案の提示</u>を。 ○学校の魅力化だけでは問題解決にはならない。<u>最終目標は地元の活性化</u>。 ○<u>南予にスポーツに対応した学科</u>があれば、流出を防げるのではないか。 ○経済的にゆとりのない家庭もある。<u>通学可能な範囲に学校の存続</u>を。
宇和島 南宇和	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>宇和島南中等の再編は、地元の中学校とセット</u>で考えるべき。 ○<u>遠隔教育の充実</u>を。民間の協力を得て、<u>情報教育の充実</u>を望む。 ○<u>小さい学校は部活動の選択肢が狭まる</u>。部活動で高校を選ぶ生徒は多い。 ○統廃合した場合、<u>県による通学バスの運行等</u>について検討を。